

## AR Commons2009年度の活動指針と基本計画

AR Commonsは、設立趣意書の前文にあるとおり、「21世紀社会の情報・テクノロジー環境に適合した、新たな学術研究、生活提案を実現するプラットフォームとして、AR (Augmented Reality) 技術を快適に利用するための多次元的空间活用を促進する非営利の任意団体」として今年の6月に誕生し、7月10日にキックオフ・シンポジウムを開催しました。

設立年度にあたる今年は、モバイル・キャリア各社、及び、デバイス・メーカー各社が、現在、サービス・インのタイミングを模索している「エア・タギング」の現実的な問題解決に貢献することにテーマを絞りAR空間における「公共圏」の定義と、誰もが使える「ソーシャルデータベースの構築」について、皆さんと共に議論を進めていきたいと考えています。

モバイル・デバイスを使ったARのサービスを誰もが快適に使えるようにする・・・それは、街の空間をプラットフォームにして、新たな三次元ウェブを生み出すという創造行為であり、現在、各地の「街づくり」などを通じて実験を繰り返している様々なパーティーは、「圧倒的なコンテンツ不足」と「スタンダードが存在していない現状」に苦勞しています。

一方で、技術的な機は熟しており、多くの企業が参入のタイミングを図っている段階なので、AR Commonsがファシリテーターとなって、デバイスやアプリケーションに縛られることなく利用できる「公共情報コンテンツ」を「ソーシャルデータベース」として整備・蓄積していくことを提案します。

属性の異なる商業エリアで実証実験を行っている掌握可能なチームのすべてに声をかけ、企業、個人、自治体、大学、クリエイターなどの皆さんに参加して頂き、その結果を共有することで、AR的な情報提供が可能な環境を整備するため、AR Commonsでは「ソーシャルデータベースの構築」において取り扱う主なサブジェクトを、以下のように定義します。

- ・ 交通機関情報
- ・ 公共機関情報
- ・ 防犯情報
- ・ 避難情報
- ・ 医療情報
- ・ 文教情報
- ・ 子育て情報
- ・ 役所等の窓口営業時間やサービス内容についての情報
- ・ 地域コミュニティ共通の催事情報
- ・ 回覧板

- ・ミニコミ
- ・地域ニュース
- ・その他

これらについて、エリアやタイミング、ターゲットになり得るテーマ、主要な利用ケースなどを想定、検討してデータベース化し、サービス構築を考えるために広く社会に活用して頂こうというわけです。AR Commonsのメンバーになった会員は、このスタンダードの構築に貢献することができます。

利用するサーバーやクライアントは、特定のサービスにバインドすることを考えていません。そのためどんな携帯キャリアさんでも、デバイス・メーカーさんでも、地図、GPSデータを専門とする企業さん、代理店さんでも参加が可能・・・というのが、非営利団体としてのAR Commonsの良さだと思っています。

AR Commonsでは、こうした観点から、協力関係にある組織・団体とエリア試験や実証プロセスを同時多発的に進めたいと思っており、「空間型のウィキペディア」的な試みに発展させたいと思っております。

スケジュールとしては、8月27日（木）に会員を対象とした研究会の第一回を開催し、そこで通年の作業スケジュールを決定して、発表する予定です。

新しいビジネスの地平を切開くためには、新しいスタンダードづくりが必要になります。多くの皆様がAR Commonsと共に、このプロセスに参加されることを願っています。